

## 研究主題 「学ぶことの楽しさや意義を実感する生活科の学習指導の工夫

－児童一人一人のよさや可能性を伸ばす個人内評価を生かした

指導に着目して－」

東京都教職員研修センター企画部企画課

渋谷区立千駄谷小学校 主任教諭 橋本 靖子

### 第1 研究のねらい

小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月）では、「社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要となる。」と示され、学習指導の更なる充実が求められている。

所属校の低学年においては、幼児期に身に付けたことや自らの得意なことを十分に発揮できていない実態がある。また、先行研究から教員の実態として、生活科を指導する上で評価の仕方に困っている教員が多いことが分かった。さらに、体験後の振り返り活動では「楽しかった。」で終わってしまい、学んだことを次の活動に生かしていないことも指導上の課題である。

活動の楽しさや満足感・成就感を実感しながら、振り返ることで自らの学びを捉え直し自信をもつことが、学ぶことの楽しさや意義を実感することにつながる。そこで、教員による学習評価の在り方とともに児童自身の振り返り活動を改善する必要があると考えた。特に、教員が児童一人一人の成長を支え、よさや可能性を伸ばす視点で評価し伝える個人内評価を工夫することによって、児童は自分の変容や成長について捉え、自分のよさや可能性に気づき、学ぶことの楽しさや意義を実感し、自らの学びをつなげていくことが期待できる。そのことが、生活科の資質・能力である「身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う」ことにつながると考えた。

そこで本研究では、幼児期の教育との接続を意識し、教員による個人内評価を生かした指導と評価の在り方とともに、学習者の視点で低学年児童が自らの学びを振り返る活動の有効性を明らかにする。

### 第2 研究仮説

生活科において、個人内評価を生かした指導と評価の在り方を工夫すれば、児童は自らの学びを振り返り、自分のよさや可能性に気づき、学ぶことの楽しさや意義を実感しながら自らの学びを新たな活動に生かしていこうとするであろう。

### 第3 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

- (1) 小学校学習指導要領解説総則編における変遷から課題の把握と分析を行った。
- (2) 生活科における学習評価に関する先行研究の調査と分析を行った。

#### 2 調査研究

令和2年7月、都内公立小学校2校の教員30人を対象に、学習指導と学習評価についての意識調査を実施した。「生活科の学習評価をする上で困っている」と回答した教員の割合は、全体の53%であった（図1）。主な理由として、「振り返り活動の中で書くことが苦手な児童の見取りが難しい」とあり、生活科では、一人一人の児童の活動が異なるため、児童の活動を見取る手だてが必要であると考えた。また、「一人一人の児童のよさや進歩の状況を把握し、

指導に生かすことに課題を感じている」と回答した教員の割合は全体の 57%であり（図 2）、見取ったことを学習指導に生かすことに課題を感じている教員が半数以上いることが分かった。主な理由として、「児童を把握する具体的な手だてが分からない」とあり、教員が児童理解に基づき、児童のよさや可能性を把握する手だてが必要であると考えた。

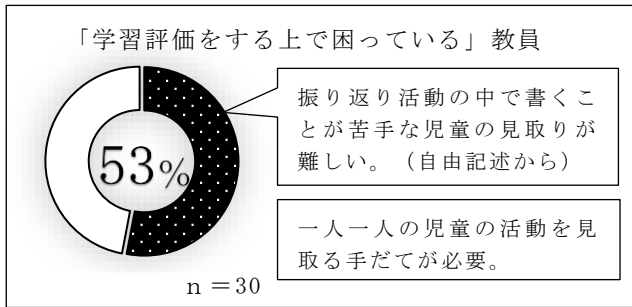


図 1 学習評価に関する教員の意識調査

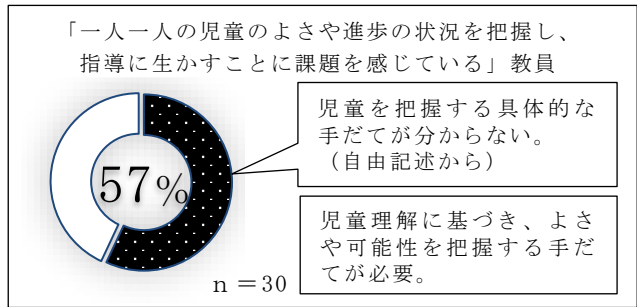


図 2 学習指導に関する教員の意識調査

### 3 開発研究

児童が本来もっているよい点や得意としていることを「よさ」、新しいことや苦手なことに挑戦しようとするを「可能性」と捉えた。そして、教員が児童のよさや可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、一人一人のよさや可能性を伸ばす個人内評価を生かした学習指導が有効であると考えた。また、活動後及び単元終末に振り返る活動を設定し、単元を通して自分の変容や成長を実感できるようにするとともに、児童は、自分の変容や成長への気付きを意欲や自信に変え、新たな学習へとつなげたり、自分の生活を豊かにしたりすることが期待される。

#### (1) 児童一人一人の成長を支え、よさや可能性を伸ばす個人内評価を生かした学習指導の工夫

児童を見取る視点は、指導要録にある行動の記録の評価項目から単元に関連する視点を抜粋した（図 3）。教員が視点を明確にし、授業時間外の児童の変容も含め、あらゆる場面において児童の成長を捉え、学習指導の改善に生かす「よさ見取りシート」を開発した（図 4）。

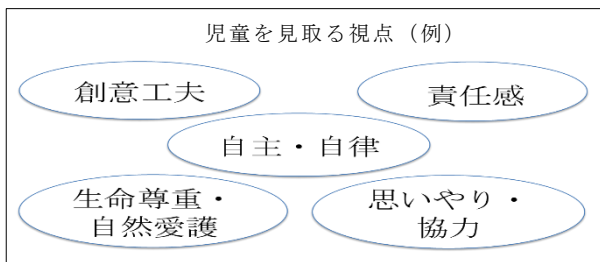


図 3 児童を見取る視点（例）

「よさ見取りシート」～授業者の視点～

名前	小単元1	小単元2	小単元3	小単元4	作品など	メモ
A児	【記録すること】 児童のよさや変容、指導内容 授業時間外の変容、作品など					

よさ 可能性

図 4 「よさ見取りシート」

#### (2) 児童が自分の変容や成長を実感する振り返り活動の工夫

毎時間の振り返りと単元終末の振り返りの視点を明確にし（図 5）、児童が単元を通して自らの学びを見つめ直し、段階的に自分の変容や成長を実感できるようにする「ステップアップシート」を開発した（図 6）。

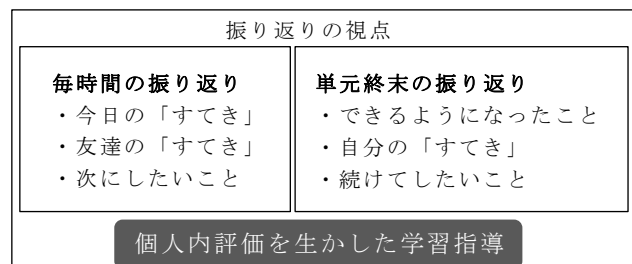


図 5 振り返りの視点

「ステップアップシート」～学習者の視点～

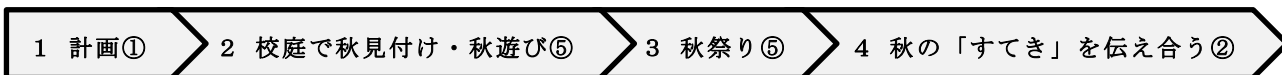
	小単元1		小単元2		小単元3		小単元4						
	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時
1	見付けた秋の「すてき」・友達の「すてき」												
2	できるようになったこと												
3	自分の「すてき」												

図 6 「ステップアップシート」

## 4 検証授業及び検証授業の分析

### (1) 検証授業の概要

都内公立小学校第1学年1組 27名の児童を対象に、「あきのすてき見つけよう」（全13時間）の検証授業を10月～11月に実施した。本単元では、児童が見通しをもちながら夢中になって遊び、秋の「すてき」を見付け、自らの学びを振り返る単元とした。（○は授業時数）



小単元1・2「校庭で秋見付け・秋遊び」では、諸感覚を使い、昆虫等も含め身近な秋の自然と関わる活動を重視した。校庭に読み聞かせや工作コーナーの場、併設園の園児と関わる時間を設定し、多様な児童が秋の自然物と豊かに関われるようにした。また、小単元3では、見付けた秋の素材を使い、秋祭りを通してみんなで遊びをより面白くする活動を重視した。小単元4では、秋の深まりを実感し、本単元の学習を振り返る時間を設定した。

### (2) 検証授業の分析

#### ア 「よさ見取りシート」による児童の把握と個人内評価を生かした学習指導の改善

単元に入る前に、「よさ見取りシート」にある就学前施設の指導要録や前単元までの記述から、就学前における経験や自然物への関心が高いなど、児童の実態を知ることができた。休み時間に秋探しなどをする児童に対し、聞き取りをしながら参考書籍を渡すなど個別指導に生かすことができた。また、「よさ見取りシート」に児童の変容や成長を一元化することで、見取りが足りない児童を把握・考察し、児童に適切な言葉掛けをするなど、その後の学習指導の改善を図った。

#### イ 「ステップアップシート」による振り返り活動の工夫

相手意識や目的意識に支えられた表現活動を行う中で、自らの学びを振り返るために、「ステップアップシート」に記入した「すてき」を伝え合い交流する場を設定した。児童は友達と交流するよさを実感し、友達や自分の「すてき」に気付くことにつながった。また、「次にしたいこと」を明確にすること

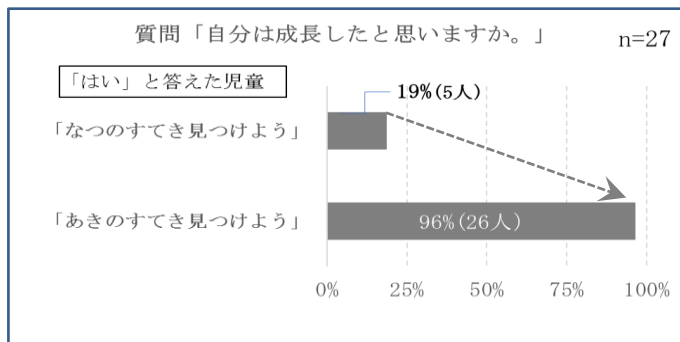


図7 自分の変容や成長を実感している児童

ことで、次時への活動の見通しをもち、活動に必要な材料等を自分で用意するなどの姿が見られた。児童は「自然のことを考えて葉や実を拾うようになった。」のように、段階的に自分の「すてき」に気付くよう振り返ることで、自分の変容や成長を実感していった（図7）。

#### ウ 「よさ見取りシート」と「ステップアップシート」を活用したことによる個別指導

教員の見取りと、学習者の視点による児童の振り返りを照らし合わせたことで、指導対象と指導内容が明確になった。そして、教員はタイミングを逃さず認めたり励ましたりするなど個別指導を充実させ、よさを伸ばしたことで、児童の可能性を見だし、可能性についても伸ばすことができた（表1）。

一方で、単元のまとまりの中で、可能性まで伸ばす姿を十分に見取れないこともあったの

で、他の単元において可能性まで見取り、伸ばす必要性を感じた。

教員が児童のよさや可能性、進歩の状況を把握し、積極的に児童に伝えたことで、児童は自分のよさや可能性に気付き、自分の変容や成長を実感することができた（表2）。検証授業後は、冬の「すてき」や家族の「すてき」を見付けようとする姿が見られ、自らの学びを新たな活動に生かそうとする児童の姿が見られた。

表1 個人内評価によってよさや可能性を伸ばした児童の姿（A児の事例）

個人内評価	個別指導	よさや可能性を伸ばした姿
<p><b>【よさ】</b>                      昆虫への関心が高い。話す・聞くことは得意である。友達思いであり、友達と関わることが好きである。</p> <p><b>【可能性】</b>                      「ステップアップシート」に記入しないが、仲のよい友達と伝え合いをしたい様子である。</p>	<p>友達や園児と一緒に夢中で昆虫探しをしていたことを価値付け、友達と伝え合いをするために、「ステップアップシート」に書くことをA児に伝えた。見付けた昆虫の特徴をA児に聞きながら「ステップアップシート」に書くようにした。書く際に昆虫図鑑を渡した。</p>	<p>昆虫図鑑を見ながら、見付けた昆虫の絵を描き、「ステップアップシート」に貼り、友達と伝え合いをした。単元終末では、友達と交流する楽しさを実感し、友達の影響できれいな色の葉にも興味を示し、そのことを伝えていた。</p>

表2 単元終末における児童の姿

検証する児童の姿	振り返りの記述内容（一部抜粋・聞き取り含む）
自分のよさに気付いた姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えて、虫をよく見た後は逃がすようになった。</li> <li>みんなや秋の自然にやさしくできる。</li> <li>一生懸命やる力や友達の話最後まで聞けるようになった。</li> </ul>
自分の可能性に気付いた姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初は虫が怖かったけど、かわいいように見えてきた。虫の気持ちが分かるようになった。</li> <li>自然のものでいろいろな物をたくさん作ることができた。友達役に立ちたいと思った。</li> </ul>
学ぶことの楽しさを実感した姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋といっぱい遊んだ。</li> <li>小さな落ち葉や小さな虫を見付けたことがすてき。</li> </ul>
学ぶことの意義を実感した姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるようになったことがいっぱいあり勇気が付いてきた。</li> <li>自分の「すてき」を見付けたり、友達の「すてき」を知ったりするために生活科の勉強をする。</li> <li>将来虫博士になって虫を調べる時に、いろいろな虫を見付けられる。</li> </ul>
自らの学びを新たな活動に生かそうとしている姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろなことに挑戦できるようになった。</li> <li>自分が見付けたいいろいろな「すてき」を家族に教える。</li> <li>虫を研究したい。</li> </ul>
自分の生活を豊かにする姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>真ん中に黄色い点がある赤い葉っぱを入れて、花束にして母にプレゼントした。母が嬉しそうにしていたのが嬉しかった。</li> <li>帰り道にうろこ雲を見付けた。秋の「すてき」を見付けたことは、大きくなっても思い出す。これからもっときれいな雲を見付けることが楽しみ。</li> <li>秋の「すてき」の見付け方が分かったので、これからもっと秋や冬の「すてき」を見付けたい。</li> </ul>

#### 第4 研究の成果

- 「よさ見取りシート」による児童の把握と個人内評価を生かした学習指導の改善を図ったことで、一人一人の児童に合った個別指導を充実させ、児童のよさや可能性を伸ばすことができた。
- 「ステップアップシート」による振り返り活動の工夫をしたことで、児童は自分の変容や成長を実感し、意欲や自信をもって、自らの学びを新たな活動に生かすことができた。

#### 第5 今後の課題

「よさ見取りシート」の項目を見直し、より簡単かつ適切に見取りができるシートに改善する。児童の可能性を十分に見取り、伸ばすことができるよう、児童の多様性を生かした学習活動や振り返り活動の改善を図る。